

糸燃後備 和紙糸使いバッグなど開発

2ブランド立ち上げる



いのが特徴。通気性、吸水性に優れるほか、張り、コシがあったり綿糸と同等の強度を持つという。浴用タオルは京友禅染めで独特の色合いを出した。和紙バッグにはバラやスミレなどの花

を一品一品手描きしたモデルもあり、「幅広い層の女性におすすめ」。1月23(水)―25日(金)に東京ビッグサイトで開催される展示会「インターナショナル・ファッション・フェア」でお披露目となる。展示ブースはD-103。

同社は創業八〇年。企業名でもある「燃糸」は、複数の糸をより合わせて一本の通常の糸にすることを指す。細いテープ状に裁断された和紙をそのままよると切れてしまうため、特殊な溶液でぬらしてよりを掛ける「水燃り製法」を川崎燃糸(株)と共同開発。昨夏に特許を取得し、和紙糸を使用したデニム生地の販売を行っている。

同社は「天然繊維なので処理も簡単で環境にもやさしい。今後もこの和紙糸を基本にさまざまな商品開発をしていきたい」としている。▽問 ☎ 084・958・3355 △http://www.binnen.co.jp

糸加工・販売の備後燃糸(株) (福山市芦田町福田八七二、光成猛社長) はこのほど、和紙の糸を使用したバッグ、浴用タオル、ショールを開発した「写真」。「光」
「B8N LIGHT」という
二つのブランドを立ち上げ、4
月から販売を行う見込み。

同社が独自の製法で手掛けた和紙の糸を基に、NPO法人「京都もの創り作家の会」副理事長で、テキスタイルデザイナーの塩谷栄一さんと共同で制作。一見、綿糸と変わらないが、綿糸より軽くけばがないため、肌触りが柔らか